

連合への吸収・合併に反対し、自治労三綱領での
団結と、新たな決意に燃えた闘いを心から訴えます。

〔全ての自治体労働組合へのアピール——大都市職労連絡会——〕

一九八八年二月二〇日

反動勢力との闘いを発展させるために結集

全国の働く仲間の皆さん

私たちは、12月10日、「連合への吸収・合併に反対する大都市職労連絡会」を結成いたしました。

いま、「連合」路線に反対し、真に労働者と国民の立場に立った闘う階級的な労働運動の伝統を発展させる真摯な努力が、全国で展開されています。

私たちは、こうした努力を重ねている全国の全ての仲間たちと団結し、自治体労働者と住民の生活と権利を守るために、国家権力や資本と真向から闘う労働運動を発展させるために結集しました。

この「大都市連絡会」は、自治労が去る八月に三重県で開催した第五四回定期大会で連合への吸収・合併

の道を選択しようとしたため、宮部都労連委員長、服部名古屋市労連委員長及び東京・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・北九州の各委員長、福岡市職労による「連合」に参加せず、自治労三綱領で団結を「のアピールを発表したことを土台に、宮部都労連委員長の呼びかけにより結成したものです。

私たち「大都市連絡会」はここに改めて全国の仲間へ「連合」への吸収・合併に反対し、自治労三綱領での団結を心から訴えるものです。

組織防衛という名の団結破壊はやめよ

全国の働く仲間の皆さん

一二月七日開催された「連合」と総評の第八回首脳

会談は、「進路と役割の承認、国際自由労連への加盟、統一労組懇等「連合」反対勢力への毅然たる態度」の三原則を内容とする合意を再確認し、これを踏まえたうえで、今秋の「統一」に到るスケジュールを決定しました。またその後の首脳会談でも作業委員会にむけて一層選別排除を強化しています。

これは文字どおり「連合」への吸収・合併に他なりません。

自治労本部は、一二月八、九日開催の第八九回中央委員会で、いわゆる高野三原則や大会答弁・確認を反古にし、「連合」への吸収・合併への道を推進する中心的役割を果たすことを再確認しました。そしていま、自治労組織防衛の名のもとに反「連合」勢力封じ込めに躍起となっています。これは事実上の選別排除であり、「連合」への身の証しを進めていると言わなければなりません。

私達は、自治労本部の組織防衛という名の団結破壊や組織介入をただちに中止し、自治労が「連合」への吸収・合併に反対し、自治労三綱領で団結する立場に

たちもどるよう強く望むものです。

闘う労働運動の伝統は前進を遂げている

全国の皆さん

今日、「連合」路線と労働者・国民との矛盾は、ますます鮮明になってきています。

職場に吹き荒れる合理化攻撃、賃金抑制、退職手当・年金削減、住民生活を根底から破壊する消費税導入や福祉切り捨て。その一方で進行する大企業の空前の利益、土地や株の異常な暴騰と、その影にうごめく虚業と頽廢の黒い勢力。天皇の死去を利用した歴史の捏造と、代替りを利用した一層の政治の反動化の企みが進行しています。

「連合」がいかに自民党政府や企業に忠実な「組織」であっても、平和と民主主義、人権の擁護と豊かな暮らしを求める全ての国民の要求を抑えることはできません。日本の闘う階級的労働組合の伝統は屈することなく前進を遂げています。

私達が結成した「大都市連絡会」の発足が何よりそ

の証です。また同時に八九春闘で資本や当局の企みを打破する大きな共同の闘いが構築されてきつつあります、

また、新しい年に入って消費税の廃止や、リクルー卜疑獄を究明する国民の怒りは増々広がっています。

私たち自治体労働者の要求を実現する道は、こうした闘う仲間たちとともに進む以外にはありません。

『大都市連絡会』に結集する二〇万組合員は、八九春闘勝利、「連合」路線反対、闘う労働者・労働組合との共闘の発展のために全力を挙げて奮闘します。

全ての自治体労働組合が、私たちと共に歩まれることを心から訴えるものです。

連合吸収・合併に反対する大都市連絡会

代表世話人 宮部 民夫（東京都労働組合連合会）

世話人 服部 信夫（名古屋市労働組合連合会）

三栖 義隆（東京都区職員労働組合）

森田 謙一（横浜市従業員労働組合）

山岸 光夫（名古屋市職員労働組合）

河内 一郎（京都市職員労働組合）

森友 謙（神戸市職員労働組合）

佐藤 光雄（広島市職員労働組合）

榊原 健二（北九州市職員労働組合）

神田 照紀（福岡市職員労働組合）